

# ぐんま川便り

・ニュースレター・

平成31年3月28日

第56号

群馬県河川協会 発行  
(事務局：群馬県河川課)

NEWS

## ぬくい 温井川の河川改修事業が完了しました!!



一級河川温井川は、藤岡市篠塚の水田用水路を起点として高崎市新町地内で烏川へと合流しており、延長は6,160mとなっています。

本河川は、平成5年に一次改修が完了しましたが、住宅や工場が建ち並び、急速に都市化が進んだことから、平成11年8月に浸水被害が発生し、これを契機に平成12年に延長1,780mの二次改修事業を開始しました。

事業の開始にあたり、工区内におよそ100年前に築造されたレンガ護岸が発見されたため、この歴史的な価値のあるレンガ護岸を保存する構造に見直して整備しました。

約20年間かけて整備が完了し、整備前と比べ約3倍の流量を流せるようになったことから、浸水被害の軽減が期待されます。

## 完成式典を開催しました!!



温井川の完成を記念するとともに、ご協力いただいた皆様に感謝を込めて、新町地域づくり活動協議会と群馬県藤岡土木事務所の共催で、平成30年11月23日(金)に高崎市新町の弁財天公園芝生広場にて完成式典を開催しました。

地元の方や自治会の方など、総勢280名の方々にご参加いただき、水防災意識の向上や子供たちによるヘラブナの稚魚の放流で川への愛着を育みました。

楽しく笑う子供たちの笑顔がとても印象的でした。



(河川課川づくり係)

REPORT

## 第4回河川氾濫に関する群馬県減災対策協議会の開催について

平成31年2月19日(火)に第4回河川氾濫に関する群馬県減災対策協議会が開催されました。今回の協議会では各市町村長が出席し、協議会の法定化が承認されたほか、減災に関する取組についても確認されました。

また、東京大学大学院片田敏孝特任教授をお招きし、「荒ぶる自然災害から犠牲者ゼロを目指す～抜本的改革が進む我が国の防災行政～」と題して防災講演会が行われ、水害時の避難における行政の住民対応についてなどお話をいただきました。群馬県は災害が少ないという「安全神話」を信じ、危機感を持っていない住民が多いことや、激甚化する自然災害には行政と住民が一体となって対峙することが必要だという話が印象的でした。行政の立場で取組等を考える上では、どうしたら多くの住民が「自分の命は自分で守る」という主体的な姿勢で災害に向き合ってくれるだろうか、と考えることが大切であると改めて感じました。



協議会の様子



講演会の様子

(河川課水害対策室防災係)

REPORT

## 危機管理型水位計の運用開始について

近年、全国で頻発している豪雨では、水位計を設置していない河川の様子が把握できず、その河川の氾濫によって、多くの方が逃げ遅れるなどの被害が発生しています。

従来の水位計では、機器の高額な設置費や維持管理が課題となっていました。安価な危機管理型水位計の開発により、これらの課題が解決され多くの河川に水位計を整備することが可能となりました。

群馬県では、水位計が設置されていない河川で危機管理型水位計の整備を進めており、平成31年の6月までに順次運用を開始します。

今後、これらの河川でも、水位の把握が可能となり、洪水時の迅速で適切な避難判断に役立つこととなります。

危機管理型水位計とは、平常時には水位観測を行いませんが、河川の増水時に一定の水位を超えると観測を開始する水位計です。



危機管理型水位計運用システム(川の水位情報)の表示画面 (<https://k.river.go.jp/>)



危機管理型水位計設置状況

(河川課水害対策室防災係)

## REPORT

# 邑楽・館林圏域河川整備計画を変更しました

邑楽・館林圏域河川整備計画は平成16年2月に当初計画が策定され、板倉川、多々良川、鶴生田川などの整備を進めてきました。しかし、平成23年7月の台風6号などで洪水氾濫被害が発生した新堀川や逆川の対策や、堤防強化対策や排水機場の長寿命化などの取り組みを位置づけるために計画を変更しました。計画対象期間は、今後おおむね20年間です。必要な手続きを終え、平成30年10月5日に国の認可を受けました。なお、今後も適宜内容について点検を行い、必要に応じて変更していきます。

(河川課河川企画係)

## REPORT

# 碓氷川の河床低下対策を検討！！

碓氷川は安中市を西から東へ流れる延長約37.5kmの一級河川です。

河道内では河床低下の影響により、砂礫の堆積は少なく、河床にも断続的に露岩が見られるため、護岸等の河川構造物の安全性の低下や取水機能の確保が課題となっています。

また、河床の地質は泥岩・シルト岩質で構成されており、乾燥と湿潤を繰り返すと風化しやすいスレーキング特性を有しているため、河床低下を進行させる要因となっています。

過去には深掘れ箇所を対象として、石丸積工による帯工等の対策を行ってきましたが、対策箇所については効果が見られたものの、全川を通してみるとまだまだ露岩している区間が多く、景観や生物の生息環境としてもよくない状況です。

河床低下の抑制及び河川環境の改善のため、平成29年2月に河川整備計画審査会内に河床低下対策検討部会を設立して、河川工学や魚類、水生生物等の河川環境の専門家から意見を伺いながら河床低下対策を検討していくこととしました。

同年7月から開催している検討部会では、河床低下の要因分析を行うとともに、現状を把握するための基礎データとして、レーザ測量による河床形状の計測や、砂礫域を把握するためのUAV空撮、魚類や水生生物、河床材料、水質等の河川環境調査、岩盤の侵食量調査等を実施しています。また、碓氷川河床低下対策計画やモニタリング計画を策定し、現在は、碓氷川の露岩河床に有効となる対策工を検証するため、久保井戸浄水場付近で試験施工を行っています。

試験施工では河床に土砂を留めるための対策工を検証していますが、河床低下の抑制には上流からの土砂供給も必要となるため、ダムに堆積している土砂を下流河川へ還元する方法も検討しているところです。今後は、モニタリングを行い効果を確認しながら、碓氷川全体の河川環境の改善につながるような対策を進めていきます。



岩盤の風化状況



碓氷川の露岩状況



石丸積工



第1回検討部会 現地調査

(河川課川づくり係)

# 鯉のぼりまつり情報

**こいのぼりの里まつり** —鶴生田川（館林市内5会場）—

- \* 鯉のぼり 4,373匹（5会場合計）
- \* 3月25日（月）～5月10日（金）
- \* 平成5年に20匹程度の掲揚から始まり、平成17年には5,283匹の掲揚数で世界記録に認定されました。4,000匹を超えるこいのぼりが水面を揺らす、壮観な眺めを楽しめます。

**がんな鯉のぼり祭り** —神流川（神流町観光案内所下河川敷）—

- \* 鯉のぼり 800匹
- \* 5月1日（水）～5月5日（日）午前9時～午後4時
- \* 800匹の鯉のぼりが清流神流川の上空を雄大に泳ぐ神流町の伝統的なお祭りです。会場では数多くの出店が立ち並び、地元の食材を使った様々な料理を販売しています。特設ステージではヒーローショーや有名タレントによるコンサートなども開催され、ご家族そろって楽しめます。



写真（左）は「がんな鯉のぼり祭り」の様子。



写真（右）は「こいのぼりの里まつり」の様子。

（河川課河川管理係）

## 県内ダムの紹介 きりづみ ～霧積ダム～

### ◆ 概要

霧積ダムは、安中市松井田町坂本に県施工第一号のダムとして建設され、昭和51年度に完成しました。碓氷川沿川の洪水被害の軽減、河川環境の保全を目的とした高さ59メートルの重力式コンクリートダムで、2,100千立方メートルの貯水容量を持ちます。ダム建設時には岩盤に弱い部分が発見されたため、コンクリートの置換やフィレット（強度を持たせるため、ダム本体の上流部下部に設ける増厚部）の施工を行いました。

ダム完成後には堆砂（ダムへの流入土砂）の進行が早いため、貯水池上流部に貯砂ダムを設けて対策を実施しています。

### ◆ 観光

霧積ダム上流には霧積温泉があります。過去には伊藤博文や与謝野晶子が霧積温泉を訪れており、明治時代にはたくさんの旅館や別荘が点在していましたが、現在では一軒の旅館を残すのみとなっています。また、森村誠一の「人間の証明」の舞台にもなっています。



霧積ダム

（河川課水害対策室防災係）

### \* あとがき \*

ニュースレターへの掲載希望や、ご意見・ご質問がございましたら、下記送付先までご連絡ください。河川愛護活動や川づくりへの取り組みに関する情報を特に募集しております。

【送付先】群馬県 県土整備部 河川課 河川管理係 〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

TEL : 027-226-3612 / FAX : 027-224-1368 / E-mail : kassenka@pref.gunma.lg.jp

